

しなののうた

金の輪の日食見えねどわが内に輪の輝ける朝のひととき



杉田小百合

しなののうた

幼き日ガラスの枝に煤を塗り
兄妹と見し日食浮かぶ

杉田小百合



しなののうた

日食の眼鏡を覗く登校の子らを追い抜く車にひやり



杉田小百合

しなののうた

全身に宇宙の神秘漲りて狭き心のわれに恥じいる

杉田小百合



しなののうた

太陽が元に戻りて輝きを浴びて恵みの深きを知りぬ



杉田小百合